

『金属3Dプリンタ技術の現状と課題』

東北大学 金属材料研究所 〇千葉晶彦、

共同研究者:青柳健大、趙宇凡、山中謙太、



発 表 内 容

- 電子ビーム積層造形とレーザー積層造形の特徴
- ・PBの溶融挙動に及ぼす粉末粒度分布(PSD)の影響
- PB溶融凝固挙動に及ぼす粉末形状の影響(溶質 trapping)

パウダーベッド溶融方式の積層造形

電子ビームやレーザーを熱源としたパウダーベッド溶融結合





粉末の流動性は、パウダーベッド方式積層造形において、動的粉末挙動 に影響を及ぼす重要な因子である。優れた流動性により、粉末は滑らか に敷き詰められる。(Flowability ≠ spredability)

高速度カメラによるMPのモニタリング





EBとLBのsingle-melt-track 試験





OM観察 ザー(Concept laser ®) ₁₅₀₀ 電子ビーム (Arcam ®) E_{line} = 6 J/mm V = 100 mm/s35 mm/s <u>W</u>idth (μm) 210 W, *P* = 800 W, 1000 500 ٦ " > 0 1600 500 un 500 µm **E**_{line} 8 J/mm = Depth (hm) 1200 800 1400 V = 100 mm/sWidth 35 mm/s *P* = 800 W, P = 280 W,epti 800 " > 600 500 µm 1.5 10 J/mm **E**_{line} = Width/Depth 100 mm/s mm/s P = 1000 W,1 P = 350 W,35 0.5 = > " > 初期 T: 初期 T: 0 298 K 5 8 Line energy (J/mm) 10 500 µm 1123 K 500 µm 6

レーザープロセスでは、メルトプールは狭くて深い。

6

X-CT observation

Electron beam (Arcam ®)

Pre *T*: 1050 °C

Laser beam (Concept laser ®)

Pre *T*: 25 °C



P = 1000 W, *V* = 100 mm/s

$E_{\text{line}} = 10 \text{ J/mm}$ P = 350 W, V = 35 mm/s

Hufan Zhao PhD Thesis 2019 Tohoku University

レーザー溶接における溶融池の形状に及ぼすレーザー ビーム出力密度の影響



Fig. 2.5. Identification of the three modes in laser welding. Adapted from Buvanashekaran et al. [74].

Buvanashekaran G, Shanmugam SN, Sankaranarayanasamy K, Sabarikanth R. A study of laser welding modes with varying beam energy levels. Proc Inst Mech Eng, Part C: J Mech Eng Sci 2009;223:1141–56.



電子ビームフロセスにおいて、深いメルト プールが形成されるが、熱源が経過すると 表面に凹凸か形成されずに、内部にもキー ホール由来の**欠陥は形成されない**。 レーザープロセスの場合は、表面に凹凸が 形成されて、窪みと盛り上がりが周期的に 形成される。内部には、キーホール由来の 欠陥が多数形成される。

シミュレーション:結果

キーホール由来の欠陥の形成





不安定なキーホールは崩壊し、ボイドが形成される。ボイドはメルトプールの後ろに移動する際、前進する凝固界面に閉じ込められるため、ポアが生じる。

┃ 電子ビームとレーザーの両熱源の特徴と加工条件に基づき、メルトプールの**不安** ┃ **定性**に対する種々の物理的効果の影響について、シミュレーションを通して考察 ┃ する。

シミュレーション:考察

①メルトプール挙動に対する蒸発圧の影響



<u>シミュレーション:考察</u>





***無効**:2回目以上の反射の無効化 レーザープロセス(*E*_{line} = 10 J/mm)

多重反射が無効化されると、内部欠陥の形成傾向も減少する。



Majumdar T, Bazin T, Massahud Carvalho Ribeiro E, Frith JE, Birbilis N (2019) Understanding the effects of PBF process parameter interplay on Ti-6AI-4V surface properties. PLOS ONE 14(8): e0221198.https://doi.org/10.1 371/journal.

гонок

Secondary electron micrographs of polished surfaces corresponding to various laser parameter combinations. Burn-through pores circled in red, lack of fusion pores (with partially melted particles) circled in blue, and near-spherical pores circled in green.







2020年7月に打ち上げられた、パーシビアランスの重要な搭載機器は、X線分析装置により岩石の組成を分析する惑星計測器(PIXL:Planetary Instrument for X-ray Lithochemistry)です。ロボットカンチレバーアームの端部から張り出した部位に取り付けられたPIXLアセンブリは、NASAジェット推進研究所(JPL)のエンジニアによって設計され、物理的に厳しく不良な環境でも精密な化学分析や実験を行うために設計されました。

付加価値的エンジニアリング

積層造形の進化を促進する

Carpenter AdditiveにとってPIXLプロジェクトは挑戦でした。 問題を解決し、繰り返し検証する事で、最終的に新たな積層造形プロセスを 生み出しました。

- 部品の特徴と表面機械加工技術に関する蓄積
- ・最適なサポート構造
- HIP時の歪みを防止するための洗練されたサポート
- ウエハース形状の断片、ビン形状やラティス形状の永久サポートを 含む実験により導き出された厳しい公差を満たす内部サポート
- 薄肉強度の限界値が向上





発 表 内 容

- 電子ビーム積層造形とレーザー積層造形の特徴
- ・PBの溶融挙動に及ぼす粉末粒度分布(PSD)の影響
- PB溶融凝固挙動に及ぼす粉末形状の影響(溶質 trapping)



Institute for Materials Research, Tohoku University

パウダーベッドの溶融・凝固

粉末の粒度分布(PSD)の違いにより、パウダーベッドの 溶融凝固挙動がどの様に影響を受けるか

Yufan Zhao, Yuichiro Koizumi, Kenta Aoyagi, Kenta Yamanaka, Akihiko Chiba

Thermal properties of powder beds in energy absorption and heat transfer during additive manufacturing with electron beam, Powder Technology, 381 (2021) 44–54.

doi:10.1016/j.powtec.2020.11.082

粉末の粒度分布 (PSD) の違いにより溶融挙動は異なる?



スで、粉末層の特徴(**空間配列**と**粒度分布**)の影響について研究する。

メルトプールの安定性における粉末層の役割について



メルトプールの安定性における粉末層の役割について



21

パウダーベッドの熱物性

熱伝導と熱放射が粉末層の有無により異なる



22

溶融プロセスに対するPSDの影響

Experimental verification



- 実験結果とシミュレーション予測の間には大きな一致が示されました。
- 高出力条件下では、小サイズの粉末を使用した溶融トラックの表面品質が改善されました。

与えられた層の厚さの下では、全体のサイズが小さい粉体層を溶融するには、比較的大量の入力エネルギーが適切です。

溶融プロセスに対するPSDの影響



24



発 表 内 容

- ・電子ビーム積層造形とレーザー積層造形の特徴
- ・PBの溶融挙動に及ぼす粉末粒度分布(PSD)の影響
- PB溶融凝固挙動に及ぼす粉末形状の影響(溶質 trapping)



パウダーベッドの溶融・凝固

粉末形状が電子ビーム積層造形の溶融凝固挙動に与える 影響について調べる。

・Co-28Cr-6Mo 合金 ・インコネル718合金

Yufan Zhao, Kenta Aoyagi, Yohei Daino, Kenta Yamanaka, Akihiko Chiba Significance of powder feedstock characteristics in defect suppression of additively manufactured Inconel 718, Additive Manufacturing, 34 (2020) 101277. doi:10.1016/j.addma.2020.101277

Methods

Materials and EB-PBF processing

Inconel 718 (IN718) alloy powders fabricated by two methods: GA & PREP

- (mass%) Ni Nb Cr Mo Al Ti Mn С Ν Fe 52.43 Bal. (i) 18.90 3.05 0.49 0.89 4.99 0.15 0.039 0.072 52.60 18.60 3.00 5.20 0.006 (ii) 0.65 0.99 0.05 0.045 Bal.
- i. Gas atomization (GA)



ii. Plasma rotating electrode process (PREP)





合金粉末特性(形状)とパウダーベッドの溶融挙動の関係





PBの溶融に対する粉末形状の影響

GA-powder bed



absorption

High balling tendency

and wetting

29



Fig. 3. One batch of Inconel 718 cuboid samples with dimensions of 15 mm \times 15 mm \times 20 mm fabricated on a SUS304 substrate.

Additive Manufacturing 34 (2020) 101277

加えられた体積エネルギーによるサンプル密度の変化

それぞれの安定した密度値に到達するために、GA粉末はPREP粉末よりも多くの エネルギーを必要とする。

PREP粉末:低エネルギ入熱で高密度化する

溶けやすく高密度化しやすい



GA粉とPREP粉のそれぞれの最適プロセス条件を 機械学習法を用いて探索



Kenta Aoyagi, Hao Wang, Hideki Sudo, Akihiko Chiba

内部欠陥形成に及ぼす粉末形状の影響



最適プロセス条件で作製された造形物の欠陥形成(電子ビーム積層造形)



造形方向に平行な断面のSEM画像。(a)と(c)はGA粉末。(b)と(d)は PREP粉末の造形物。(c)と(d)は対応する2値化画像。



GA sample

成された試料





* T. Magnusson, L. Arnberg, Metallurgical and Materials Transactions A:. 32 (2001) 2605–2613.

デンドライト間隙領域の大きな偏析は、デンドライト間隙の収縮の可能性を高める

内部欠陥形成に及ぼす粉末形状の影響

最適プロセス条件で作製された造形物の凝固欠陥形成(電子ビーム積層造形)



Fusion on *PREP*-powder layer exhibited a higher R and resultant higher cooling rate ($G \times R$) than that on **GA**-powder layer.

内部欠陥形成に及ぼす粉末形状の影響



最適プロセス条件で作製された造形物の凝固欠陥形成(電子ビーム積層造形)



金属積層造形における析出物形成機構









Fig. 2.23 Illustration of solute trapping for a diffuse solid-liquid interface. Notice that at higher velocity (right hand side) more solute atoms are "trapped" in the solid.

溶質トラッピング現象の模式的な説明





大きな凝固速度(R)では、偏析が抑制される(溶質トラッピング)

- ・収縮(ボイド)の抑制
- •偏析(析出物形成)抑制

まとめ

- > 高エネルギー条件においてのメルトプール生成について、電子ビームプロ セスと比べ、レーザープロセスの方は内部欠陥が形成されやすい。
- ▶ 環境気圧は蒸発圧の大きさを決める。電子ビームプロセスの真空条件に おいて、メルトプールの安定性に対する蒸発圧の悪影響は最小限に抑えられる。
- 熱流束の多重反射のない電子ビームプロセスにおいて、メルトプールの安定性がレーザープロセスより優れる。
- レーザー加工の大気圧条件(その以上)で予熱が適用されると、蒸発圧の増加により溶融池の安定性が低下し、内部欠陥が増加すると考えられる。

PBF-EBのメルトプールはPBF-Lに比べて安定性が高く、 PBF-EB 造形でのプロセスウインドウが広く得やすい傾向を示唆している。

まとめ

GA粉とPREP粉のまとめ

- 1. PREP粉末を使用したプロセスでは、プロセスウィンドウ が比較的広く、欠陥が抑制される。エネルギー入力が不十 分または過剰であるかどうかに関係なく、PREP粉末はGA粉 末よりも優れた適応性を示した。
- 2. PREP粉末と比較すると、GA粉末にあるガス孔の他に、最 適なプロセス条件でも、GAサンプルにはデンドライト状の ボイドが多く存形成される。
- 3. エネルギー吸収率と熱伝導率が低いため、GA粉末は、低 エネルギー条件下と高エネルギー条件下で、それぞれ溶融不 足と過度の溶融を引き起こす可能性がある。
- 4. PREPサンプルで形成されるデンドライト間ボイドの抑制
- は、高い冷却速度と凝固速度によるものである。
- 5. PREP粉末では、高速凝固において期待される、溶質ト ラッピングが現れる。

Bound Metal Deposition法

Bound Metal Deposition (BMD)法

- 熱可塑性樹脂を用いる熱溶解積層 (FDM)法と
 金属粉末射出成形 (MIM)を応用
- 金属粉末/熱可塑性樹脂からなるフィラメントを 造形に使用
- 低コストかつ金属の溶融凝固を伴わない



□ BMD法のプロセス











Desktop Metal

結論

本研究では、BMD法を用いて作製した金属造形体の相対密度・内部構造の造形 パラメータによる影響ならびに引張特性変化を調査した。

- Std.モード材の相対密度は造形体の形状に関わらず約95%と一般的な MIM材と同等の相対密度を示した。
- Denseモード材では相対密度がさらに向上し、約98%となった。
- Denseモード材ではMIM材と同等の引張特性を示した。
- 低密度となる原因はノズルから吐出された材料のパス間に形成する
 空隙であることが示唆された。
- 押出圧力を高めることでパス間の接着性が改善され、相対密度が向 上した。

ご清聴ありがとうございました